

# コンピュータ文のいろいろ

2015年  
11月30日(月)  
16:10 - 17:40

愛知県立大学 長久手キャンパス  
特別講義棟 2F S201

リニモ「愛・地球博記念公園」駅下車 徒歩3分

予約不要  
参加無料

「ぼくはウナギだ」「お姉さんは男の子ね」  
——これらは一体、どんな意味になるのか、分かりますか？

「吾輩は猫である」「明日が締め切りだ」など、文末の述語が「名詞＋{だ／です／である}」のような形を取る文を、「コンピュータ文」と呼ぶことにします。「だ／です／である」等の、いわゆる「断定」の形式を“コンピュータ”と呼ぶからです。英語であれば“I am a cat.” “Tomorrow is the deadline.” など、A is Bの形を取る文に相当する場合があります。英語に直訳できないタイプの文もあります。日本語では、コンピュータ文にさまざまなヴァリエーションがあり、冒頭に掲げたような、英語にはない不思議な文も普通に使われているのです。この講演では、日本語のコンピュータ文を意味と構文の面から分類し、その不思議を解明していきます。その際、キーとなるのが“集合”という概念です。この概念の適用を拡げていくと、いままで気づかれていなかった日本語文法のさまざまな性質が見えてくるのが分かります。

講師：金水 敏 KINSUI Satoshi

1956年大阪生まれ。

大阪大学大学院文学研究科教授。

大阪女子大学講師、神戸大学助教授等を経て現職に至る。

専門は日本語文法史および役割語研究。

主な編著書に

『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』(岩波書店、2003)

『日本語存在表現の歴史』(ひつじ書店、2006。新村出賞受賞)

『コレモ日本語アルカ？ 異人のことばが生まれるとき』(岩波書店、2014)

『〈役割語〉小辞典』(研究社、2014)ほか。

お問い合わせ

0561-76-8824 愛知県立大学 高等言語教育研究所  
E-mail gengoken@for.aichi-pu.ac.jp <http://www.for.aichi-pu.ac.jp/gengoken/>

